

4 学校施設の有効活用

学校施設老朽化対策ビジョンにおける指摘のポイント

- 学校施設の規模については、将来の児童生徒数の動向等を見極めつつ、適切な規模に見直していくことも必要である。
- この際、余裕教室などの空きスペースの有効活用をより一層進めるとともに、学校施設が地域の核となることも視野に入れ、他の公共施設との複合化・共用化を図ることも考えられる。

掲載事例

ここでは、老朽化した学校施設を改修する際に、行政財産を有効に活用する観点から、図書館・公民館との複合化を実施した事例や余裕教室を老人福祉施設へと転用した事例を紹介する。

また、余裕教室や廃校となった高等学校を、需要が高まっている特別支援学級や特別支援学校に転用することで施設の有効活用を図っている事例を紹介する。

◆地域の実情に応じた多機能化

- 4-1 志木市立志木小学校（埼玉県） 既存校舎を活用した公共施設複合化
- 4-2 向日市立第4向陽小学校（京都府） 余裕教室の老人福祉施設への転用による複合化

◆余裕教室の活用等

- 4-3 香取市立佐原小学校（千葉県） 余裕教室の特別支援学級等への転用
- 4-4 東京都立永福学園（東京都） 廃校となった高等学校の有効活用

